

第 682 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日 時：2022年6月11日（土） 午後2時00分

来場開催会場：飯田橋レインボービル7階大会議室

（新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3260-4791）

ライブ配信URL：

<https://us06web.zoom.us/j/85851942799?pwd=NFkyWDZMTTI0WFJ2YWdOWm15bDRNQT09>

ミーティングID：858 5194 2799

パスコード：cgrD5P



*教育講演の聴講単位につきましては、当日来場にて聴講いただきました方に配布させていただきます。（オンデマンド配信は実施いたしません。）

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備考
来場参加	500円	小児科領域講習1単位(iii貼付用) 学術集会参加単位(iv-B貼付用)	*単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要(60分)
WEB参加	無料	単位なし	*オンデマンド配信はいたしません

今年度は来場及びライブ配信での開催とさせていただきます。（新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては来場開催を中止する場合がございます。）ライブ配信の詳細、今後の開催に関しましてはホームページやプログラムにてご案内させていただきますのでご確認ください。

なお、昨年度の教育講演は引き続きオンデマンド配信と聴講単位の付与を行います。第678回講話会教育講演のオンデマンド配信のご案内は本プログラムに掲載しておりますのでご確認ください。

東京都地方会

会 長 森岡一朗（日本大学医学部小児科学系小児科学分野 主任教授）

主 幹 校 日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

事 務 局 佐藤企画 佐藤 隆志

当日緊急連絡先 佐藤企画（TEL048-706-7196）

東京都地方会HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 682 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

プログラム係 杏林大学 小児科 宮田 世羽

第 1 グループ 14:00—14:20

座長 米田 立 (東京大学感染制御部)

1) *Gardnerella vaginalis* が原因菌と考えられる乳幼児尿路感染症の 1 例

○塩地 祐貴、太田 昌志、八木沼瑞紀、井口 智洋、大西 卓磨、古市 宗弘、新庄 正宜、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

2 か月女児。発熱のみを主訴に受診。血液、髄液培養検査は陰性、便培養検査で病原菌はなし。カテーテル尿培養検査で臍常在菌として知られている *Gardnerella vaginalis* が単一で検出された。この菌による小児尿路感染症の報告は過去に 2 例しかない。同菌を原因菌と判断した根拠、具体的な経過を報告する。

2) 急性リンパ性白血病の治療中に急性虫垂炎を発症した 2 歳児

○谷口 智城¹⁾、加登 翔太¹⁾、中野 嘉子^{1),2)}、日高 もえ¹⁾、関口 昌央¹⁾、渡邊健太郎¹⁾、樋渡 光輝^{1),2)}、横川 英之³⁾、小俣佳菜子³⁾、杳掛 真衣³⁾、高澤 慎也³⁾、吉田真理子³⁾、藤代 準³⁾、加藤 元博¹⁾ (東京大学小児科)¹⁾、(同 無菌治療部)²⁾、(同 小児外科)³⁾

B 前駆細胞性急性リンパ性白血病の 2 歳男児。早期強化療法中の発熱精査のために行った造影 CT 検査で急性虫垂炎と診断した。腹部所見は軽微であり、抗菌薬治療の継続と禁食により、穿孔や膿瘍形成はせず軽快したため、骨髄の回復後に虫垂切除術を施行した。骨髄抑制中の感染症は理学所見に乏しいことがあり、積極的に画像検査を行うべきである。

第 2 グループ 14:20—14:45

座長 宮本 智史 (聖路加国際病院小児科)

3) 網羅的ウイルス PCR が早期発見に有用であった骨髄移植後サイトメガロウイルス網膜炎

○高橋 周平¹⁾、中村有梨沙²⁾、新里 大毅²⁾、星野 顕宏²⁾、満生 紀子²⁾、神谷 尚宏²⁾、磯田 健志²⁾、高木 正稔²⁾、梶原 道子³⁾、野村 卓平⁴⁾、平高瀬 博⁴⁾、金兼 弘和²⁾、森尾 友宏²⁾ (東京医科歯科大学総合教育研修センター)¹⁾、(同 大学小児科)²⁾、(同 大学病院輸血・細胞治療センター)³⁾、(同 大学眼科)⁴⁾

1 歳 1 か月男児。Wiskott-Aldrich 症候群に対する骨髄移植後、網羅的ウイルス PCR をモニターしていたところ、サイトメガロウイルス (CMV) DNA コピー数の増加を認め、眼底検査で CMV 網膜炎と診断した。抗ウイルス薬投与、ドナーリンパ球輸注療法、免疫抑制薬中止、ガンシロビル眼内注射によって寛解を得ることができた。

4) 肝移植後の免疫抑制薬内服中に発症した腸腰筋膿瘍の1例

○中村 果歩¹⁾、仲川 真由¹⁾、三森 愛美¹⁾、新井 喜康¹⁾、中村 明雄¹⁾、田中 裕子¹⁾、
稲毛 英介¹⁾、神保 圭佑¹⁾、遠藤 周¹⁾、安部 信平¹⁾、鈴木 光幸¹⁾、春名 英典¹⁾、
清水 俊明¹⁾、眞田 幸弘²⁾、佐久間康成²⁾

(順天堂大学小児科)¹⁾、(自治医科大学消化器一般移植外科)²⁾

11歳男児。胆道閉鎖症、葛西術後に非代償性肝硬変に至り、1歳時に生体肝移植を行った。タクロリムス内服により肝機能は安定していた。入院10日前より右腰部痛が出現、2日前より歩行困難となり初診(WBC:10400/ μ L、CRP:9.4mg/dL)。造影MRI検査で6cm大の右腸腰筋膿瘍を認めた。抗菌薬投与とCTガイド下穿刺ドレナージ術が奏功し膿瘍は縮小した。排液より *Streptococcus intermedius* が検出された。

指定発言 小松 充孝(賛育会病院小児科)

休 憩 14:45—14:50

感染症だより 14:50—15:10 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏(国立がん研究センター中央病院感染症部)

高梨さやか(国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:10—16:20 (講演:60分+質疑応答:10分) 小児科領域講習 1単位

座長 長野 伸彦(日本大学小児科)

新しい小児生活習慣病予防健診

原 光彦(和洋女子大学家政学部健康栄養学科)

生活習慣は、様々な非感染性疾患(NCD)の発症増悪に関与する。NCD予防のためには、健康教育や早期診断が大切である。我が国では、1987年に全国28都府県で小児成人病健診が開始され、小児生活習慣病予防健診と名を変えて各地で行われているが、未だに法定健診ではないため、健診項目や総合判定の方法は様々である。今回、東京都予防医学協会と共同で2型糖尿病や非アルコール性脂肪性肝疾患の早期発見も視野に入れた新しい小児生活習慣病予防健診システムを開発し、2019年から杉並区に導入したので、その内容や成績を紹介したい。

休 憩 16:20—16:25

第3グループ 16:25—16:55

座長 濱野 翔(杏林大学小児科)

5) 気管腕頭動脈瘻からの出血後の腕頭動脈離断術で救命した男子例

○藤賀由梨香、竹内 博一、熊澤 健介、日暮 憲道 (東京慈恵会医科大学小児科)

周産期脳障害により寝たきり状態の14歳男児。1歳時に喉頭気管分離術が行われ、その後側彎が進行し、長期に人工呼吸器管理が行われていた。経過中、気管腕頭動脈瘻による気管内出血を呈しショック状態となったが、圧迫止血と腕頭動脈離断術で救命しえた。本症は致死率の高い合併症であり、本症例でいかに予防すべきであったか考察する。

6) 劇症型心筋炎を発症した Turner 症候群の 1 例

○大田みずほ¹⁾、千田 理絵¹⁾、浅木 弓英¹⁾、高橋 諒¹⁾、渡邊 由祐¹⁾、税所 純也¹⁾、石田 悠¹⁾、山中 岳²⁾

(東京医科大学八王子医療センター小児科)¹⁾、(同 大学小児科・思春期科)²⁾

Turner 症候群を有する 15 歳の女子が呼吸困難と心電図異常のため当院へ搬送された。弁膜症や大血管奇形を除外し、劇症型心筋炎と診断した。心肺蘇生と体外循環補助を要し、2 週間の集中治療により退院したが、3 か月後に甲状腺機能低下症を発症した。基礎疾患のため診断、治療、後遺症に配慮が必要であったことから、文献的考察を加え報告する。

7) 新型コロナウイルスワクチン接種により顕性化した IgA 腎症の小児例

○石川仁太郎、水谷 亮、佐藤 俊介、矢賀部彩音、坂野万里子、武田 翔、室田 直紀、上野 梨子、宮野 洋希、秋本 智史、遠山 雄大、丘 逸宏、吉田 登、宮田 恵理、山崎 晋、辻脇 篤志、岩崎 友弘、鈴木 恭子、寒竹 正人、大友 義之

(順天堂大学練馬病院小児科・新生児科)

15 歳男子。学校検尿で無症候性血尿を発見され定期的に通院していた。新型コロナウイルスワクチンの接種後に 2 度とも肉眼的血尿をきたし、生検にて IgA 腎症と診断した。mRNA ワクチンの免疫賦活化作用により糸球体腎炎が顕性化する報告が成人では散見されるが、その機序は不明である。若年例での既報の検討を交え、考察を加えて報告する。

第 4 グループ 16:55—17:15

座長 大熊 こずえ (杏林大学小児科)

8) 両側腓腹部痛を契機に診断に至った遺伝性痙性対麻痺の孤発例

○山井 卓磨²⁾、永井 章²⁾、中村沙祐里²⁾、早川 格³⁾、窪田 満¹⁾、石黒 精²⁾

(国立成育医療研究センター総合診療部)¹⁾、(同 教育研修センター)²⁾、(同 神経内科)³⁾

9 歳男児。4 歳から年単位で悪化する両側腓腹部の疼痛を主訴に受診した。家族歴はないが、両下肢に腱反射亢進と緩徐進行性の痙縮を認めた。血液検査、生理検査、画像検査から、遺伝性痙性対麻痺と除外診断した。同病は歩行異常を初期症状であることが多いが、慢性進行性の下肢痛を認めた際にも本疾患を想起する必要がある。

9) 一過性の片麻痺症状を伴う頭痛で発覚した Basedow 病の 1 例

○西畑 綾夏¹⁾、高橋 寛¹⁾、田中 裕之^{1),2)}、神田 珠莉¹⁾、高橋顕一郎¹⁾、山本 櫻子¹⁾、有路 将平¹⁾、下田 麻伊¹⁾、小野真由美¹⁾、神田 祥子¹⁾、横山晶一郎¹⁾

(青梅市立総合病院小児科)¹⁾、(東京大学小児科)²⁾

12 歳女児。受診前日の夜に頭痛・一過性の左半身の知覚・運動障害を発症。当初脳血管狭窄・梗塞や片麻痺性片頭痛等を鑑別に挙げ、頭部画像検査を実施したが異常所見なく、後日提出した甲状腺機能検査にて Basedow 病と診断した。甲状腺機能亢進が頭頸部血管の可逆的狭窄病変形成に関与した報告はあり、本症例も同様の病態が推察される。

【次回以降開催予定日】

2022年7月23日(土) (来場 (飯田橋レインボービル7階大会議室)+ライブ配信の予定)

2022年9月10日(土) (来場 (アットビジネスセンター八重洲501号室)+ライブ配信の予定)

2022年10月8日(土) (来場 (アットビジネスセンター八重洲501号室)+ライブ配信の予定)

【運営委員会だより】

1. 2022年5月の運営委員会は来場+Webで審議を行った。今回の講話会からは来場+Live配信での開催となった。
2. 第682回講話会のプログラム編成について承認された。
3. 第682回、683回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
4. 指定発言に関しても、来場でのご発表をお願いすることとなった。
5. 次期プログラム委員を帝京大学にご担当頂く事となった。
6. こどもの健康週間パンフレットを例年通り作成することとなった。
7. 講話会開催形態、プログラムのペーパーレス化、HP改定に関し、検討された。
8. 年会費について、システム移行に伴いホームページからオンライン決済になる予定。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 指定発言も設定可能です。(共同演者から指定発言は頂けません)
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先のご発表となることがありますのでご了承ください。
その場合、事務局よりご連絡します。

【座長・演者の先生方へのお願い】

- 2022年5月以降の講話会は来場およびライブ配信での開催となりますので、座長・演者の先生は必ず会場までお越しください。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します(原稿はワード入力にてe-mailにて事務局へ、ご発表後月末までにお送り下さい)。
- 参加した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後(または適切な時期)にTake Home Message(この発表から学ぶこと)を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所(プログラム送付先)等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

【事務局よりご連絡】

- 来場での参加費は500円となりますが、学術集会の参加単位(iv-B貼付用)と小児科領域講習の聴講単位(iii貼付用)は、発行いたします。Live Zoomでの参加の場合には参加費は無料ですが両単位とも発行されません。
- 2022年3月までの教育講演はオンデマンド配信で単位が取得できる様に準備ができましたらホームページ等でご案内させていただきます。

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows のみ可、Mac は不可) のみで受け付けます。Mac の PC 持ち込みによる発表はご遠慮ください。Powerpoint2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、第 2 グループの発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までスライド受付まで持参してください。機械操作は当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。

第 678 回東京都地方会講話会教育講演 オンデマンド配信のご案内

オンデマンドご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム(会員専用)にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となりますが、ユーザー名:tokyoとPWD:jps-tが必要となります。ホームページの『開催のおしらせ』に参加URLを掲載致します。

2022年1月8日(土)に行われました第678回東京都地方会講話会教育講演の小児科領域講習単位は、講演視聴と設問解答後、合格者には聴講証がダウンロード頂けるようになります。

演題名 小児科診療に有用な血液・腫瘍疾患の基本知識

演者 加藤 元博 先生 (東京大学大学院 医学系研究科
生殖・発達・加齢医学専攻 小児医学講座 小児科学分野)

視聴方法 下記Googleフォームよりご登録をお願い致します。
(後日、視聴用 URL をお知らせいたします。)

<https://forms.gle/vxwkoDVCgvc2Jr3e8>

前登録期間 2022年6月7日(火)～6月14日(火)



前登録された方には後日参加 URL とパスワードをお知らせ致します。
視聴期間は2022年6月21日(火)12:00～6月27日(月)12:00とさせていただきます。
何卒よろしくお願い致します。

以上

【お問い合わせ】

日本小児科学会東京都地方会事務局

TEL:048-706-7196

e-mail: jpstokyo-office@ab.auone-net.jp